

Webinar: ストックホルム+50が残したもの

Kohei Yamada

プログラム・コーディネーター
ストックホルム環境研究所 (SEI)

Stockholm Environment Institute (SEI)

ストックホルム環境研究所（SEI）は、持続可能な開発と環境問題を専門とする非営利の政策研究所。

- 1989年に設立。
- **Bridge Science and Policy** - 環境と開発の分野で科学と政策を橋渡しする知識を提供することにより、意思決定を支援。
- スウェーデンの本部＋世界中に7つの事務所。
- 気候変動、エネルギー、水資源、大気汚染、土地利用などの問題に取り組む。ジェンダー、ガバナンス、人権の視点に重きを置く。



SEIと Stockholm+50

どのように関わったか

SEIとStockholm+50の関わり



<https://unsplash.com/photos/7WIEdxOy-QA>

歴史的な関わり (Stockholm+0)

- 1972年の国連人間環境会議の末採択された「ストックホルム宣言」に由来し、設立。
- スtockホルム宣言の掲げる、社会発展における環境的側面の充実を理念の柱とする。

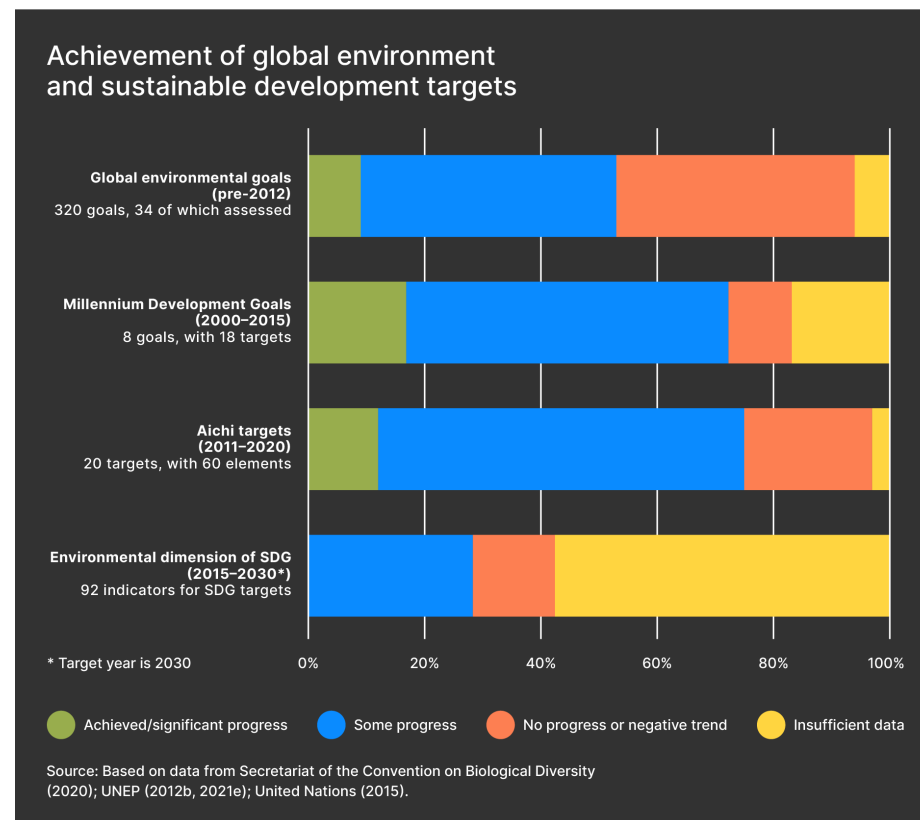
Stockholm+50 (2022年)

- スウェーデン政府の支援のもと、2つのレポートを通じて会議の議論をサポート。
- Scientific Report: Unlocking a Better Future
- Youth Report: Charting a youth vision for a just and sustainable future



Scientific Report: Unlocking a Better Future

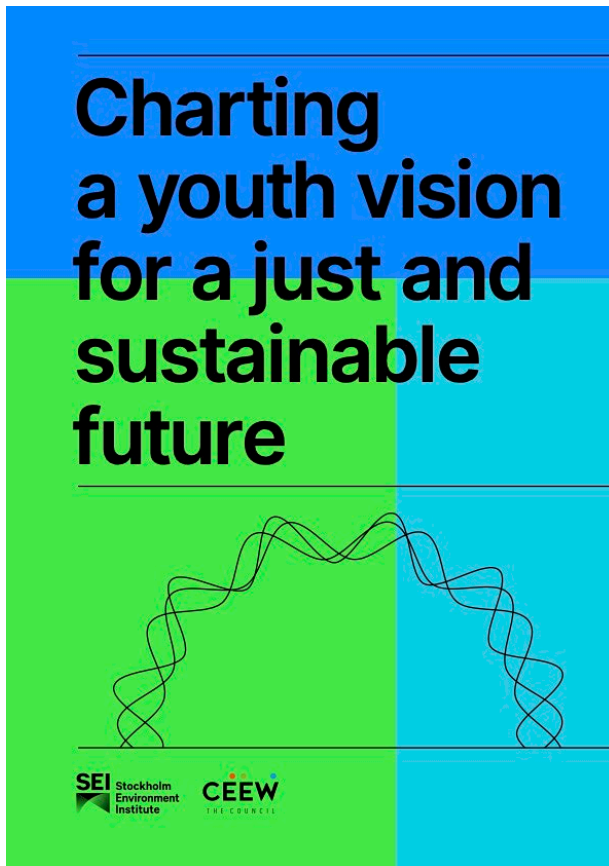
- Stockholm+50会議に先立って出版。いかに国際社会で合意した環境に関するGlobal Goalsが達成されていないのかをデータで提示した。
- 2022年現在までに達成されたゴールは全体の10%に満たない。
- 顕著な「アクションギャップ」。



若者参加促進 に向けて

Youth Reportを通じて

Youth Report: Charting a youth vision for a just and sustainable future

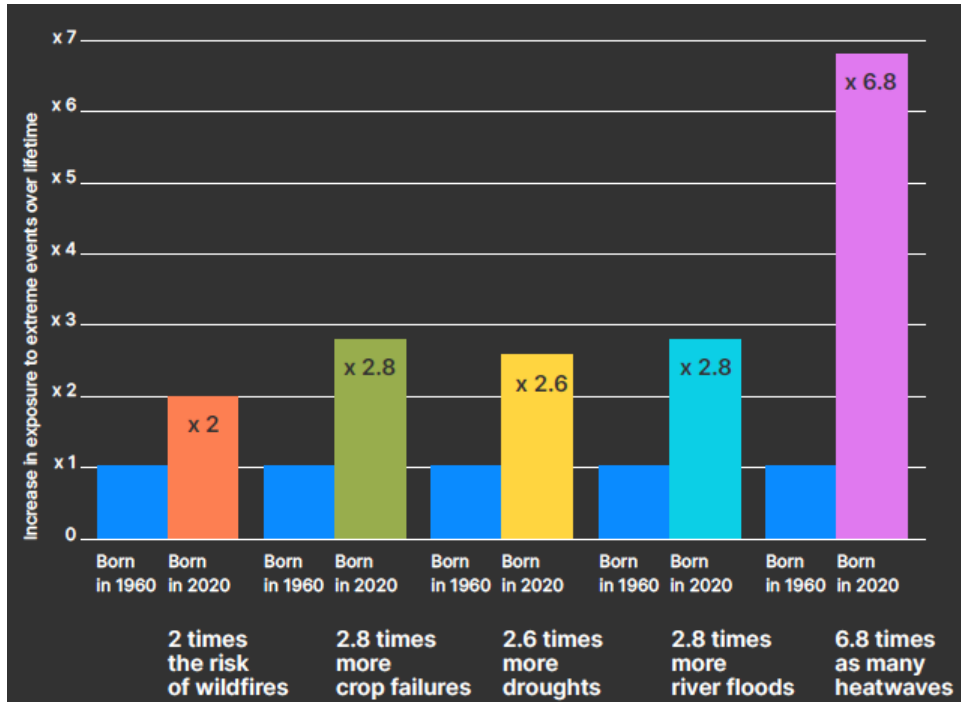


- メインレポートに沿う形で、若者の実際の声に焦点を当てたユースレポートを出版。
- Stockholm+50では世代間の責任や若者のリーダーシップが大きな柱となっており、議論において若者の視点を提示する目的。
- 12人の若手研究者により執筆
- 1000+人の若者に向けたサーベイ

ユースレポート：なぜ若者にフォーカスするのか

- レポート著者をはじめ、サーベイに参加した若者は、「ストックホルム宣言」が採択された50年前にはまだ生まれていない。
- 現代の若者は、50年前から形作られた地球環境、ガバナンス、国家政策を引き継いで生きている。
- この世代は、悪化する気候変動の影響下でこの先何十年と生きていく。
- 世代間協調の必要性。現在の環境問題は若者も含めた全ての世代の責任。
- 世界人口の約半分は30歳以下の若者で構成されている（2019年）。

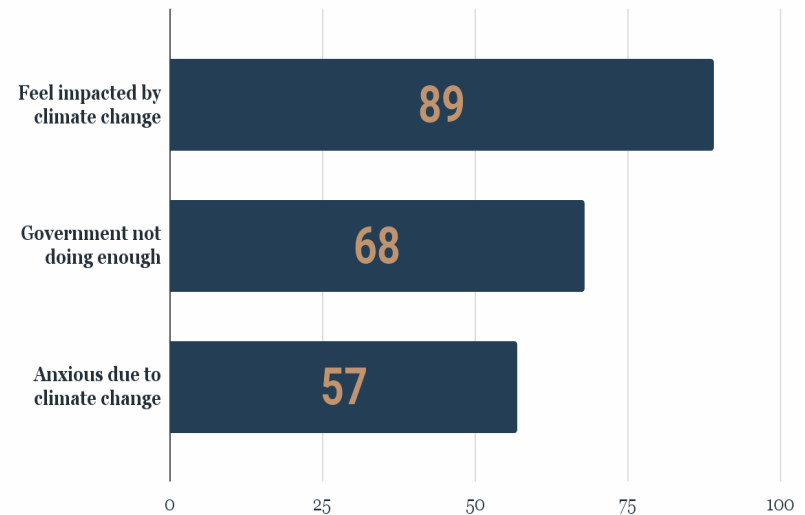
ユースレポートを通じて伝えたかったこと：若者の現状と声



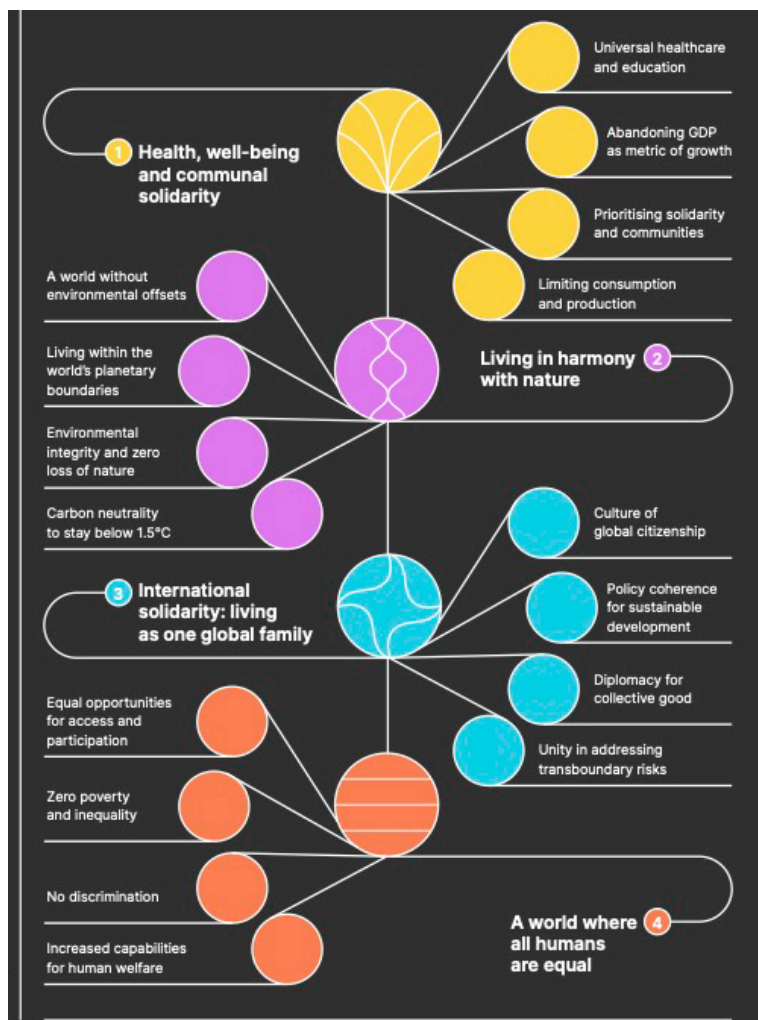
91
Countries

~ 1000
Youth (18-30 years)
respondents

Perceptions of global youth



ユースレポートから見る若者が掲げる 未来のビジョン



50年後に目指すべき世界のビジョン (Stockholm+100)

1. 健康、幸福、結束に重きを置いた世界
2. 自然との共生
3. 国際社会における国家間の協調
4. 全ての人が平等

ユース主導のアクションのさらなる加速に向けて（政策提言）

グローバルガバナンスや政策交渉の場において若者の声を汲み取るメカニズムの必要性。

- 57%の若者が主な国際政策協議の場（気候変動分野において）での若者の参加が不十分だと考えている。
- 若者や子ども世代への理解を促すため、政策レポートなどの資料・情報のアクセシビリティを向上。
- たとえ若者が参加したとしても、「参加自体」でインクルージョンの目的が達せられたとみなされる場合が多い。

教育を通じたエンパワーメント

- トピックにおける「経験と知識の不足」を理由に若者参加が限られている現状。
- サーベイに参加した20%の若者が気候変動に対してアクションを発する自信がないと回答。

Stockholm+50 を終えて



再認識された若者の果たす役割（SEIからの視点）

- 若者に焦点を当てた、さらなるマイルストーン。
- SDGsやその他の環境ゴールに向けた環境プロジェクトへの関連性。
 - ユース・メインストリーミングの風潮の強化。
 - 環境・開発イニシアティブにおけるCrosscutting Issueとしての若者参加や若者の視点。
 - 「社会的弱者」から「変化を作り出すアクター」へ。

ご清聴ありがとうございました

kohei.yamada@sei.org